

白石市文化財調査報告書第33集

市内遺跡発掘調査報告書 4

平成 21 年 7 月

白石市教育委員会

例　　言

1. 本書は、白石市教育委員会が平成20年度に実施した市内遺跡発掘調査事業にかかる調査結果報告である。なお平成20年度の事業は国庫補助事業となり、総事業費は2,038千円である。
2. 土層の色調表記については、『新版標準土色帖』(小山・竹原、1996)を用いた。地図は白石市土地情報提供GIS及び都市計画図等を用いた。
3. 検出遺構の略号は以下の通りである。
S I : 竪穴住居跡　　S D : 溝跡　　S K : 土坑　　P : 柱穴
4. 本事業の調査実施は宮城県白石市教育委員会社会教育課遠藤智課長及び斎藤勇雄課長補佐による指揮のもと、日下和寿、櫻井和人が担当した。報告書本文執筆は日下、櫻井が担当した。資料整理は岡部とき子、平間大志、佐藤里菜、吉田佐知子があたった。資料整理作業は資料整理室（白石市郡山字寿山5-3）で実施した。
5. 発掘調査の実施、報告書作成等にあたっては、宮城県教育庁文化財保護課をはじめとする次の機関・個人から多大なご協力をいただいた。

(敬称略)

土師器、須恵器　菅原　祥夫（宮城県考古学会員）

中近世陶磁器　　佐藤　　洋（仙台市教育委員会）

土人形　　小井川百合子（仙台市博物館）

発掘調査　　石本　　弘（白石市文化財保護委員）

資料整理　　鈴木　敬規、丹野　幸恵（東北学院大学・インターナンシップ）

高橋建設株式会社、各事業主、鉢盛郷上考古学研究会

6. 昨年逝去された前白石市文化財保護委員の高橋辰男氏に哀悼の意を表するものである。
7. 市内遺跡発掘調査報告書Ⅲの訂正
第1表の訂正は、本書第1表後半に記した。24頁7行目、丹青→淡青、26頁18行目5月18日→5月23日、31頁14行目、20060308→20070205
8. 本事業の記録及び出土品は、白石市教育委員会生涯学習課が保管しており、依頼に応じて公開、貸出を行っている。

第1章 平成20年度における埋蔵文化財調査概要

平成20年度における市内の確認調査及び工事立会等箇所は第1表にまとめた。今年度では発掘調査（事前調査）1件、確認調査12件、工事立会17件、試掘調査1件となっている。ここ数年の傾向として、自治体の財政状況悪化により、公共工事が減少しており、それに比例する形で埋蔵文化財の協議、届け出件数が減少している。

農地転用、地下の埋蔵文化財に影響がある各種事業に関しては、事前に確認調査及び発掘調査を実施している。掘削深度が浅い等の理由で埋蔵文化財に影響が少ないと、過去の工事によって埋蔵文化財が既に破壊された箇所と考えられた箇所については工事立会としている。下水道工事では掘削範囲が狭小であることから、原則として工事立会としている。

平成20年度の確認調査及び工事立会のうち、15件では遺構、遺物とも発見されなかった。遺構が確認された箇所は全て、遺構面に掘削が及ぼない工事を実施することになっており、確認調査で終了となっている。また周知の埋蔵文化財包蔵地でない箇所においても任意の工事立会を実施している。これは、地形的な特徴等をふまえ、埋蔵文化財が発見される可能性のある箇所においては、工事の際、文化財調査員が立ち会ったものである。

これまで個人住宅建設にあたり、市建設部建設課建築住宅係に窓口において埋蔵文化財の手続きを周知するように依頼していたが、制度改正により、当市では建築確認申請を受け付けないこととなつた。平成20年4月からは宮城県大河原土木事務所、もしくは指定検査機関において建築確認申請を受付けることになった。当教育委員会では、大河原土木事務所及び県教育庁文化財保護課と協議を行い、建築確認時における文化財保護法の手続きについて検討した。その結果、この問題は全県的な事項であるので、文化財保護課から各土木事務所長あてに、窓口において手続きを周知徹底するように依頼することとなった。

白石城跡では工事立会が相次いだ。いずれも小規模な工事であり、若干の遺物の出土はあったものの、遺構の確認はできなかつた。工事立会の合間に周辺の踏査を実施し、公園内で各種陶磁器等を表採した。谷津川遺跡では土師器細片、杉の下遺跡では9～10世紀代の土師器破片、田上遺跡では刷片1点と陶磁器1点が発見された。大綱遺跡では近世陶磁器、蛭貝殻遺跡では円筒埴輪片が表採された。

三沢城跡では伐採計画が持ち上がり、事業主、地権者代表、文化財保護課、市教委で現地協議を行い、①土堀、空堀は現状のまま保存し、作業道建設で破壊しないこと、②重機等が土壁上を通過する際には仮設盛土あるいは倒木を敷き、遺構を保護し、作業終了後、盛土等を除去する、③土堀等の存在しない斜面に作業道を設け、遺構を避けることを確認した。その結果、作業道は二の丸北側から東側に抜けるルート、二の丸の第二空堀と第三空堀を抜けるルートに設定され、遺構が保護された。遺物は一切確認されなかつた。

これまで、森林伐採時には手続き上、埋蔵文化財の確認が行われることがなかつたため、市農林課林務係と協議を行い、ここ1年ほどの間に白石市内で伐採を実施した10の事業主に対し、平成21年3

月9日付け白教委社第726号で、事業計画策定にあたり、埋蔵文化財の有無を確認するように通知を行った。

遺跡地図整備では、遺跡範囲の誤記が著しかった福岡深谷地区の訂正作業を継続した。新規登録遺跡は3件であった。



列	遺跡名	種別	時代	列	遺跡名	種別	時代
1	上高野遺跡	散布地、製鉄遺跡	縄文早~中、奈良、平安	13	中里御陣原跡	集落	近世
2	荒井遺跡	散布地、製鉄遺跡	縄文早~晚、弥生、古代	14	月心院遺跡	散布地、寺院	古代、近世
3	三木木前遺跡	散布地	縄文後、後、古代、中世	15	吳充内遺跡	散布地	弥生~平安
4	御所内遺跡	集落	縄文早、中、後、平安	16	移宮内遺跡	散布地	奈良、平安
5	青木遺跡	集落	縄文早、中、晚、弥生、平安	17	般若寺遺跡	集落	古墳後~平安
6	下熊遺跡	散石地、城郭、製鉄遺跡	縄文後、平安、中世	18	大崩遺跡	散布地、官衙	弥生~中世
7	道内堅遺跡	散布地、製鉄遺跡	奈良、平安	19	木野遺跡	散布地	古代
8	常出寺跡	寺院	平安	20	柳田遺跡	集落	弥生、古墳
9	アマ神明遺跡	散布地	縄文中、平安	21	鹿児古墳群	前方後円墳、円墳	古墳、古代
10	田上遺跡	散布地	縄文前、中	22	谷津川遺跡	散布地	縄文~古代
11	智生田遺跡	集落	縄文前~後、弥生	23	白石条里制鉄場跡	水田跡	古代、中世
12	御所西面遺跡	散布地	古墳時代	24	和尚堂遺跡	散布地	縄文後、古代

第1図 白石市内遺跡地図

第1表 平成20年度 埋蔵文化財調査一覧

No.	遺跡名	遺跡番号	対応内訳	所在地	調査基準	調査期間
1	大塚遺跡	02262	上・立会立	宇佐大塚(108番地)	個人住宅建設	平成20年5月14日～21日
2	新船跡	02165	工事立会	南町一丁目24-14	個人住宅建設	平成20年5月7日
3	片倉家廟所	—	工事立会	福岡市本郷岩山	石造修理	平成20年5月12日～27日
4	寺内内遺跡	02430	確認調査	宇称宜内99番地2号	私道整備	平成20年5月12日
5	寺内内遺跡	02430	確認調査	宇称宜内99番地7, 101番地	宅地整地工事	平成20年5月15日
6	寺内内遺跡	02130	免職調査	宇称宜内99番地3, 5	個人住宅建設	平成20年5月15日～6月5日
7	人連遺跡	02262	確認調査	字不連ヶ原1番地13	個人住宅建設	平成20年6月3日
8	鹿島古墳群29号墳	02005	1・事立会	鹿島古墳1・2山2・6ほか	確認発掘復旧	平成20年6月9日～廻避中
9	大塚遺跡	02262	確認調査	字大塚一丁目2番地1	個人住宅建設	平成20年6月10日
10	三沢城跡	02215	工事立会	大澤沢沢二丁目8番山45-	個人住宅建設	平成20年6月16日
11	大神前跡	02149	1・事立会	白川津田子町159	墓地災害復旧工事	平成20年6月25日
12	木崎遺跡	02121	工事立会	字木崎64-15	仮設小屋十部ラザ建設	平成20年6月25日
13	大御遺跡	02262	上・立会立	西原5月井54-3	仕宅建替替え	平成20年7月8日
14	谷川川瀬跡	02133	確認調査	尾町二丁目6-7	個人住宅建設	平成20年8月15日
15	田中遺跡	02135	工事立会	大鹿沢三沢町田中ほか	下水管埋設	平成20年8月20日～12月3日
16	田中環状道路	02285	—	—	—	—
17	新船跡	02165	工事立会	新船町1-21ほか	新規敷設復旧	平成20年8月25日～9月17日
18	白石城跡	02197	確認調査	並町町12番2	仕宅建替え	平成20年10月1日
19	大門遺跡	02262	確認調査	宇栄大門郷6ほか	店舗改修	平成20年11月4日～6日
20	猪鼻前遺跡	02256	1・事立会	福岡八ヶ字8番	墓地改修	平成20年11月12日
21	白石城跡	02145	試験調査	福岡城本子町	市道施設工事	平成20年11月25日～平成21年3月30日
22	白石城跡	02215	工事立会	豆町町3-21ほか	埋蔵文化財の有無調査	平成21年1月16日
23	白石城跡	02197	工事立会	大鹿沢三沢町山場17ほか	森林伐採	平成21年1月26日～2月27日
24	白石城跡	02197	工事立会	福岡町12番地2	水道敷設	平成21年1月30日
25	出・入跡	02043	確認調査	福岡長崎子田上20-1の一部	ロッククライミングボード撤去	平成21年1月30日～2月18日
26	白石城跡	02197	1・事立会	福岡町2-7	個人住宅建設	平成21年2月12日
27	武井内遺跡	02430	確認調査	字柳川町20-1	グランダ整備、防護ネット設置	平成21年2月24日～3月9日
28	松ノ木御堂	—	上・立会立	糸川町西浦	施設建替え	平成21年3月11日
29	人連遺跡	02051	確認調査	福岡八ヶ字坂ノ上73の一部	個人住宅建設	平成21年3月13日
30	大塚遺跡	02262	確認調査	半大塚一丁目16	駐車場建設	平成21年3月16日
31	大畠遺跡	02262	工事立会	荒山町字畠150	個人住宅建設	平成21年3月17日～18日
32	二郎山遺跡	02325	1・事立会	福岡長崎子田山30の1	個人住宅建設	平成21年6月2日
33	本斎跡	02208	1・事立会	白川津田子町164の3	個人住宅建設	平成21年6月6日～6月13日
34	新船跡	02165	工事立会	南町1-21ほか	個人住宅建設	平成21年7月4日
35	谷川川瀬跡	02133	工事立会	旭町二丁目7の12	個人住宅建設	平成21年7月7日
36	半木遺跡	02206	1・事立会	福岡県原子木1-260の1	個人住宅建設	平成21年7月3日、7月20日
37	湯ノ殿古東遺跡	02250	確認調査	福岡城本子町原野168-1	無線局設置	平成21年7月20日
38	穂吉崎遺跡	02322	上・立会立	郡山字穂吉崎163-1	個人住宅建設	平成21年8月22日
39	人連遺跡	02262	1・事立会	字東大塚3-3	個人住宅建設	平成21年8月24日
40	本船跡	02208	工事立会	川津町子山上	市道施設工事	平成21年8月22日～28日
41	唐山遺跡	02115	1・事立会	城南二丁目1の109	個人住宅建設	平成21年8月28日
42	佐野道遺跡	02396	工事立会	人野大字佐野784	個人住宅建設	平成21年8月29日
43	北島从作遺跡	02009	確認調査	北島从作33号	個人住宅建設	平成21年9月1日
44	白石条革製造販売店	02400	1・事立会	旭町五丁目3の3	個人住宅建設	平成21年9月4日
45	鬼塚山遺跡	02016	工事立会	越河五賀字難々、見紗	下水管埋設	平成18年8月22日、9月15日
46	妙抄院跡	02226	工事立会	越河五賀字難々、見紗	下水管埋設	平成18年9月19日
47	御所内遺跡	02263	確認調査	福岡長崎子木板原内	個人住宅建設	平成18年9月20日
48	沢尻遺跡	02022	1・事立会	福山字平坂54	下水管埋設	平成18年9月28日
49	新船跡	02165	1・事立会	福岡長崎子木板原	個人住宅建設	平成18年10月2日
50	鬼塚山遺跡	02263	確認調査	郡山2丁目5番の一部	アパート建設	平成18年10月19日
51	坂井前遺跡	03040	T・事立会	福岡長崎子木板原	下水管埋設	平成18年10月20日
52	吉木遺跡	02306	工事立会	福岡長崎子木板原	下水管埋設	平成18年9月25日、10月20日
53	白石条革製造販売店	02400	1・事立会	丸町五丁目1の8	個人住宅建設	平成18年9月25日、10月25日
54	馬場山遺跡	03021	T・事立会	越河五賀駒場、宮下	下水管埋設	平成18年9月20日、平成19年1月10日
55	山道遺跡	02369	1・事立会	越河五賀字山道	下水管埋設	平成18年10月20日、29日
56	山道遺跡	02154	上・立会立	越河字山道	下水管埋設	平成18年10月30日、11月30日
57	木本遺跡	02101	1・事立会	福岡字山道一本木	個人住宅建設	平成18年12月4日、平成19年1月15日
58	竹ノ中遺跡	02434	工事立会	大鹿沢二丁目5番154の4	個人住宅建設	平成19年1月10日
59	鹿島古墳群30号墳	02005	1・事立会	郡山字大鹿沢1205、208	確認調査埋め戻し	平成19年1月18日
60	白石条革製造販売店	02400	工事立会	郡山二丁目1の1の一部	アパート建設	平成19年2月13日
61	寺内内遺跡	02263	工事立会	郡山字千坂	下水管埋設	平成19年2月7日、2月15日
62	古御所遺跡	02113	確認調査	大平余合斜坡下坂前24の4	確認調査	平成19年3月6日
63	下ノ羽根遺跡	02339	工事立会	越河字下羽根前、愛宕山	用排水路工事	平成19年4月17日
64	山上遺跡	02043	工事立会	福岡長崎子木板原	下水管埋設	平成19年1月24日～3月14日
65	二郎山遺跡	02325	工事立会	越河字下羽根前	個人住宅建設	平成19年3月13日
66	大塚遺跡	02262	確認調査	立場前145の5	個人住宅建設	平成19年2月5日～3月28日
67	大塚遺跡	02262	工事立会	字大塚20番20	個人住宅建設	平成19年3月30日
68	大御遺跡	02197	確認調査	郡山二丁目1360の1	病院建設	平成19年4月12日
69	寺内内遺跡	02322	上・立会立	郡山字競吉1	個人住宅建設	平成19年4月13日
70	打越前遺跡	03026	工事立会	越河字下羽根前	用排水路工事	平成19年4月17日
71	愛宕山遺跡	02370	確認調査	立王堂遺策1の1	倉庫建築	平成19年4月24日
72	新船跡	02121	確認調査	沢辺26-5	個人住宅建設	平成19年5月18日
73	下船遺跡	02307	確認調査	福岡長崎子木板原111の1	個人住宅建設	平成19年5月23日
74	前北原城跡	03095	1・立会立	福岡字下羽根原	下水管埋設	平成19年6月4日～8日
75	大塚遺跡	02262	確認調査	宇人東原69、60	住宅造成	平成19年6月4日～5日
76	川内遺跡	02135	確認調査	大字宇人大字大塚前1	個人住宅建設	平成19年6月25日
77	鹿島古墳群28号墳	02005	工事立会	鹿島字子木山1山の14	確認調査	平成19年6月25日

第2章 平成20年度における発掘調査成果

遺構が発見された調査を中心に記載する。なお、中近世陶磁器は本文での詳述を避け、一覧表に一括掲載した。また当該遺跡の関連資料も掲載した。

1 枝宜内遺跡

地 点 ①

県遺跡番号 02430

遺 跡 略 号 NG

所 在 地 白石市字枝宜内99-2、99-4、99-8、99-9、103-2番地

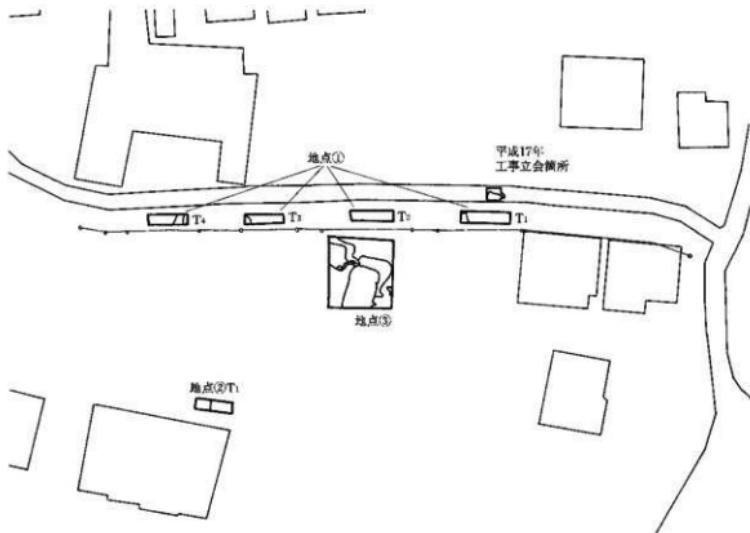
調 査 要 因 私道拡幅 調査期日 平成20年5月12日

調 査 面 積 185m² (掘削面積28m²)

遺跡はJR東日本東北本線白石駅から北へ約1kmの位置にあり、現況は畠地である。

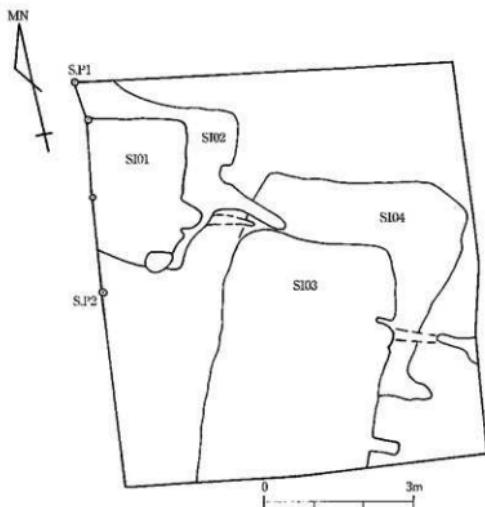
今回の確認調査箇所は平成17年9月8日～9日に公共下水道工事の工事立会で竖穴遺構が発見されていた箇所の南側である。事業地の東端は貸家に接続する下水管を保護する理由から、重機が入れず、確認調査対象から除外した。

確認調査トレンチは4カ所設定した。T1からは竖穴住居跡の竈部分が確認された。西側にカマドが設置されている。T4では南北方向の幅0.6mの溝1条、T3ではカクランとしたが、近世以降と



第2図 枝宜内遺跡調査区全体図 (S=1/600)

考えられる直径1m以上の井戸跡が発見された。T3において第3層以下が東へ傾斜、T2において第3層上面が西へ傾斜していることから、この近辺に旧河道か沢が存在した可能性がある。両トレンチからは土師器、須恵器が出土するが、これらの堆積土に含まれる遺物と思われる。T2～T4では土師器、須恵器、T3の第2層からは近世陶器、T1では土師器、T4の溝の堆積土からは土師器が出土した。時期は7世紀後半頃と推定される。須恵器の中には会津大戸窯のものが含まれている。T4における基本層位は第1層、10YR4/1褐色シルト、18cm、第2層、10YR4/2灰黄褐色砂質シルト、30cm、第3層、10YR6/3にぶい黄褐色シルト質砂、10cm以上、遺構確認面である。SD01の埋土は10YR3/2黒褐色砂質シルト、井戸跡の埋土は10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルトであった。



第3図 地点③全体図 (S=1/100)

地 点 ②

所 在 地 白石市字祢宜内99-7、101-2番地

調査要因 宅地拡張

調査期日 平成20年5月15日

調査面積 60m² (掘削面積6.58m²)

確認調査は既設土留めを避け、1ヶ所設定した。その結果、遺物包含層が発見されたが、含まれる遺物（土師器）の量はそれほど多くなかった。

基本層位は次のとおりである。基本的には道路敷拡張部分と共通である。T4における基本層位は第1層、10YR4/1褐色シルト、20cm、第2層、10YR4/2灰黄褐色砂質シルト、20cm、第3層、10YR6/3にぶい黄褐色シルト質砂、13～20cm、第4層、10YR4/3にぶい黄褐色粘土、遺物包含層、6～12cm、第5層、10YR6/3にぶい黄褐色シルト質砂、23cm以上。

地 点 ③

所 在 地 白石市字祢宜内99番3、99番5

調査要因 個人住宅建設

調査期日 平成20年5月15日～6月5日

調査面積 316.25m² (掘削面積63.75m²)

今回の住宅建築で、深さ5mを越える柱状土壤改良が実施されることになったため、確認調査を実施し、埋蔵文化財が確認されたことから、発掘調査を実施した。

今回、竪穴住居跡が4棟発見された。それぞれ2棟づつセットになり重複関係にある。1号及び2号住居跡と3号及び4号住居跡が組になり、さらに前者が後者を切っている。それぞれ割り抜き式の竪を持ち、東側辺中央よりも偏った位置に設置されるものが多い。焚き口付近には焼土、炭化物が多く見られた。

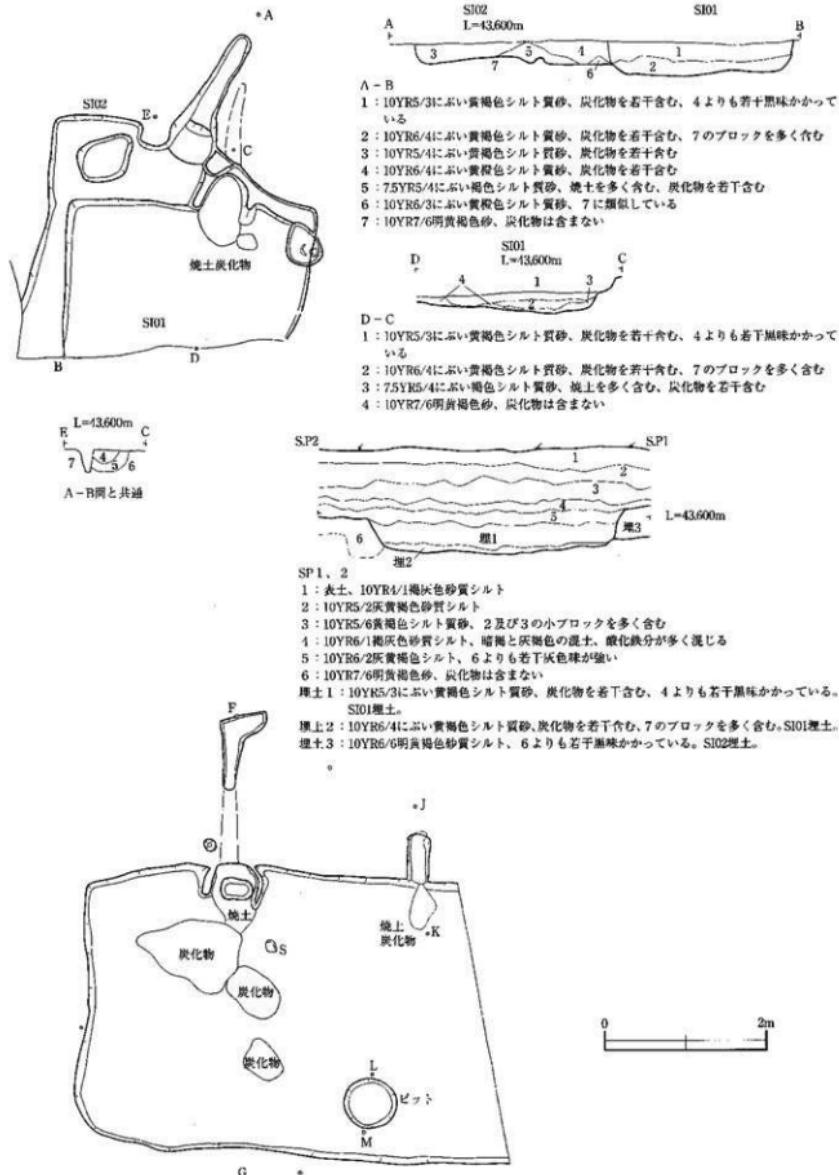
SI01竪穴住居跡、〔重複〕SI02、SI04と切り合い関係をもっており、それより新しい。

〔平面形、規模〕方形を呈するが、北辺はやや歪である。東辺で3m、北辺で2m以上の規模である。西側半分は調査区外である。〔埋土、壁、床面〕埋土は約40cmほど残っていた。床面はほぼ平坦である。壁は急に立ち上がる。主柱穴は認められなかった。〔カマド〕東側のやや南寄りに設置されている。煙道部分で1.2mほどあり、割り抜き式である。燃焼部には長さ1mほどにわたって焼土、炭化物が多く見られた。両側の袖も良好に残っており、燃焼部に面した箇所は赤色化していた。南側袖の西側にも焼土、炭化物のまとまりがみられた。〔出土遺物〕復元できたものは少なかった。高坏が出土している。墨書き器片、石器も出土している。

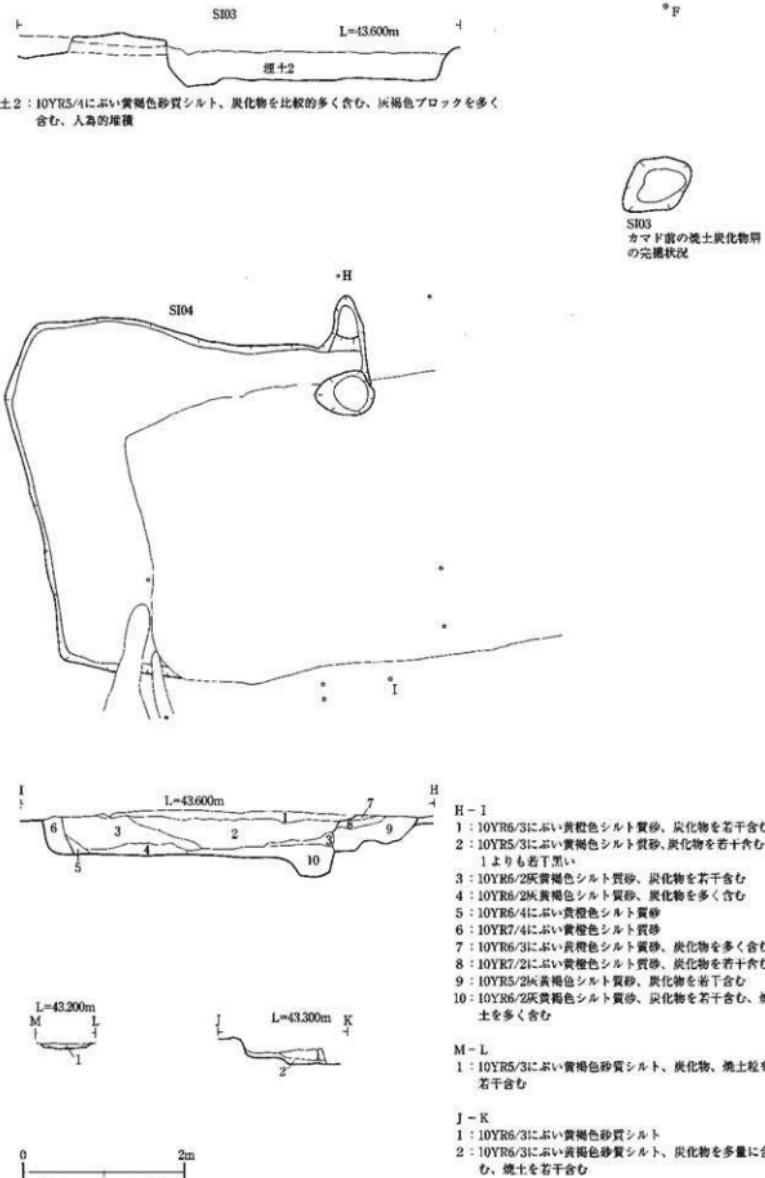
SI02〔重複〕SI01よりも古く、SI04よりも新しい。〔平面形、規模〕方形を基調とする。東辺で3.5m、北辺で3m以上の規模である。西側は調査区外である。〔埋土、壁、床面〕埋土は約30cmである。南壁沿いにピットがあり、やや大きめの土師器片が複数出土した。底面近くでは坏が底面を北へ向け、突き刺さるような状況で発見された。東側の主柱穴の位置に土坑がある。柱痕跡を確認できず、柱穴として認定できなかった。〔カマド〕東辺中央付近にSI04の埋土を切って約1.4mほど煙道部が伸びている。煙道部と燃焼部に段がある。燃焼部からは焼土、炭化物がまとまって発見された。本来は割り抜き式であったと考えられる。〔出土遺物〕図示できるものは坏2点がある。墨書き器も出土している。

SI03〔重複〕SI04と切り合い関係にあり、それより新しい。〔平面形、規模〕南北に細長いやや歪な長方形の住居跡で、南北は5.3m以上で、東西は3.5mである。〔埋土、壁、床面〕埋土は60cm程である。主柱穴は確認できなかった。南西に直径60cm程の円形を呈するピットが1基、発見された。〔カマド〕東辺に2カ所確認された。北側のものは長さ2.3m以上で、東側は調査区外に延びている。袖も歪なU字形に残っており、割り抜き式である。燃焼部付近には焼土、炭化物が広く分布している。燃焼部中央は窪んでいる。南側のカマドは長さ60cmで、長方形を呈している。袖は確認されず、焚き口にあたる部分では焼土、炭化物が確認された。住居跡の掘り方の外で煙道沿いに小さなピットが発見されている。深さは12cmであった。〔出土遺物〕坏、甕などがある。北側カマド脇には甕が底面を上にしているのが発見された。縄文時代のものと考えられる石匙も出土している。

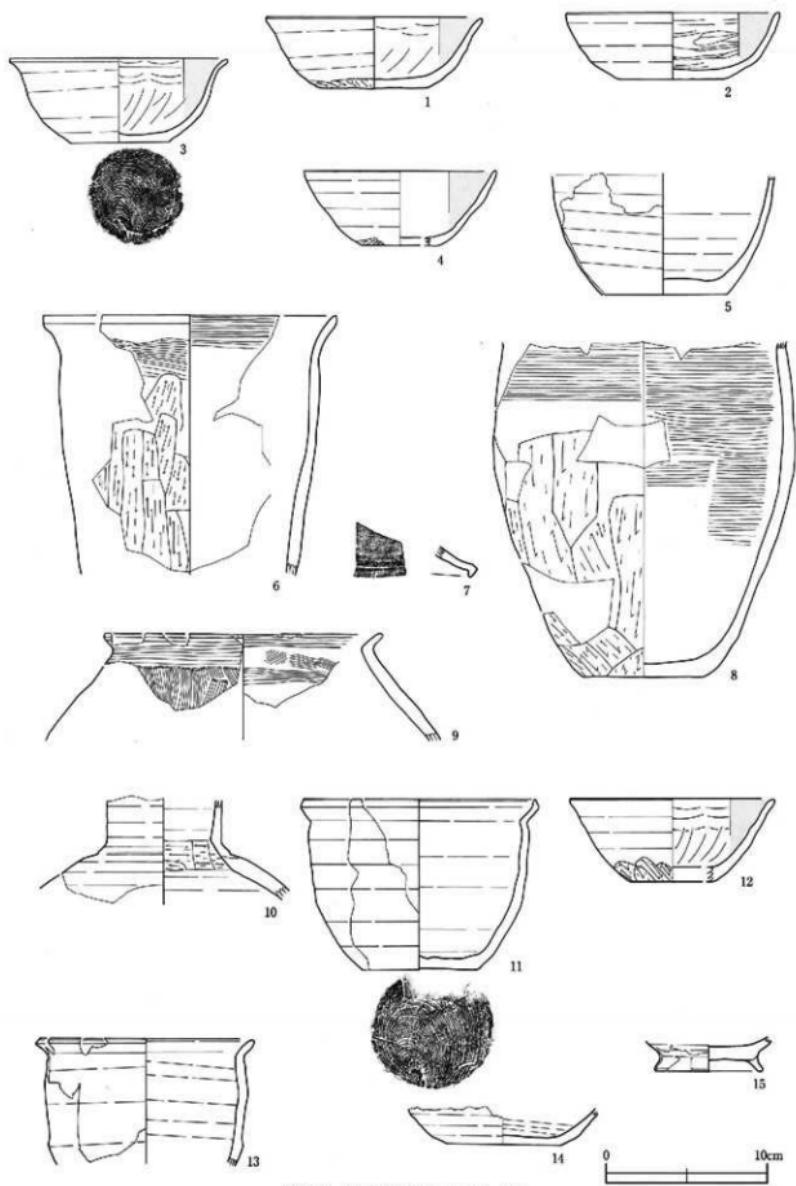
SI04〔重複〕SI03、SI02に切られている。〔平面形、規模〕南側はSI03によって切られているが、やや歪な長方形を呈すると考えられる。南北が4m以上、東西は4m程である。〔埋土、壁、床面〕



第4図 SI01、02、03等平面図、断面図 (S=1/60)



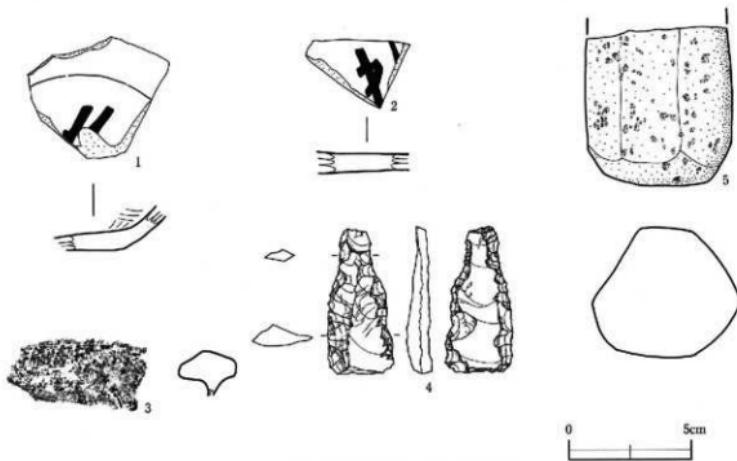
第5図 SI03、04平面図、断面図 (S=1/60)



第6図 桃宮内遺跡出土土器(1)



第7図 栃室内遺跡出土土器(2)



第8図 栃室内遺跡出土墨書き土器等

埋土は約40cmである。主柱穴は確認できなかった。〔カマド〕東辺にカマドがあるが、長さ60cmほどで短い。燃焼部にはピット状の掘り込みがある。〔出土遺物〕壊、壺が出土している。東辺近くでは、大戸産須恵器長頸瓶が内面を上にして出土している。

遺物の大半は埋土からの出土であり、床面のものは少なかった。土師器、須恵器でロクロを使用するもので、表衫ノ入式のもので、9世紀代と考えられる。完形品は少なく、破片が多い。会津大戸窯の須恵器も含まれている。

2 大畠遺跡

地 点 ①

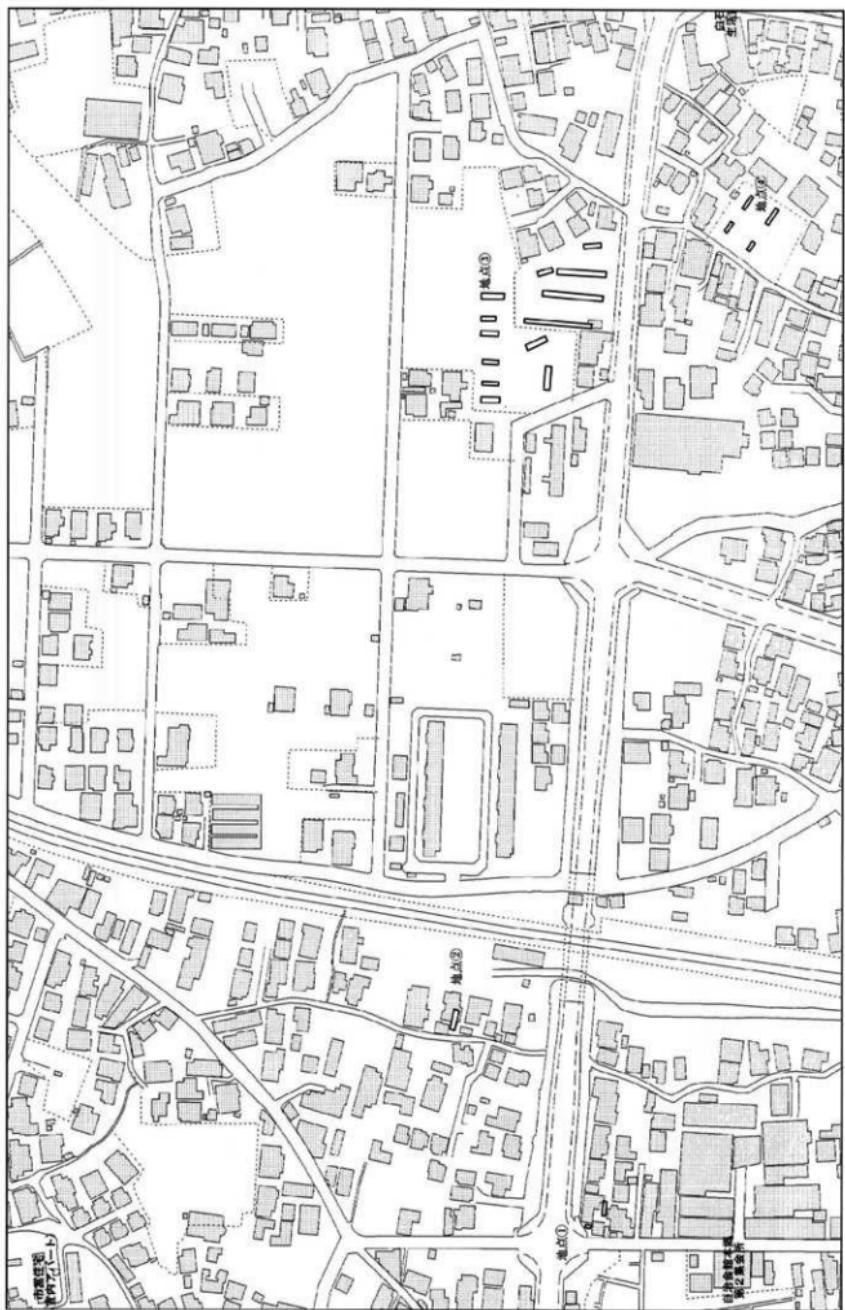
所 在 地 白石市字不澄ヶ池71番13

調査要因 個人住宅建設

調査期日 平成20年6月3日

調査面積 266.54m² (掘削面積10.2m²)

今回の調査箇所は国道113号線の南側で、西側は延命寺となる所で、JR東北本線白石駅から北西へ



第9図 大烟遭跡調査地位置図 (S=1/2,500)

0.45kmの位置である。周囲は住宅地、工場用地となっている。個人住宅地建て替えに伴い、確認調査を実施した。

トレンチは水道管、隣地と近接する箇所、住宅建築部分を避けて2箇所設定した。調査の結果、T1では土師器細片1点、風倒木痕1箇所、T2では、溝状造構1条、遺物包含層1箇所が発見された。これらの埋土は第2層に類似していた。土師器はT1の第2層、T2の4層、遺物包含層から出土している。遺物包含層の遺物はそれほど多くない。T2の基本層位は第1層、表土10YR4/1褐色シルト、18cm、第2層、10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト、灰褐色ブロックが混じる、17cm、第3層、10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト、28cm、第4層、10YR6/1褐色シルト、10cm、第5層、10YR6/6明黄褐色シルト質粘土、5cm以上、上面が造構確認面である。

風倒木痕は3層上面で確認された。溝跡と想定して精査したが、層が斜めに入り込んでおり、風倒木痕と判断した。

地 点 ②

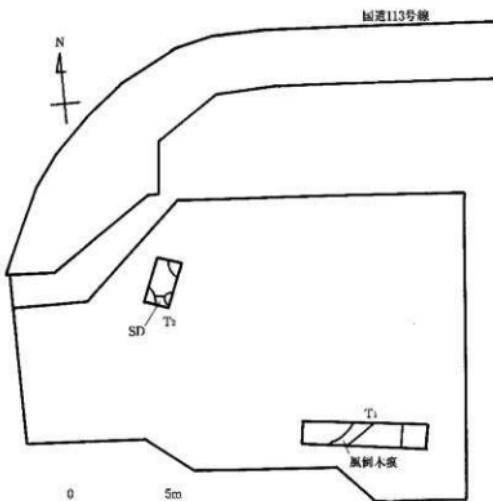
県遺跡番号 02262

遺跡略号 OH

所 在 地 白石市字大畑二番39-1

調査要因 個人住宅建設

調査期日 平成20年6月10日



第10図 大畑遺跡地点①平面図

調査面積 294.25m² (掘削面積22m²)

今回の調査箇所はJR東北本線白石駅から北へ約0.6kmの位置にある。周囲は住宅地、鉄道用地となっている。個人住宅地で替えに伴い、確認調査を実施した。

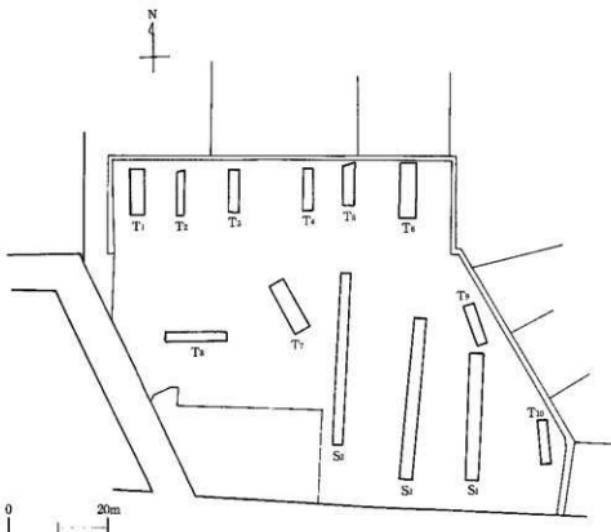
調査の結果、表上下55cmほどで遺構が確認された。残存状況不良の竪穴住居跡1棟、ピット2基が確認された。住居跡は東側に竈を持ち、一辺が5mほどの規模と推定される。埋土からは多量の土師器、炭化物が出土している。ピットは直径25cm、35×23cmの大きさであった。竪穴住居跡埋土埋土は10YR4/1褐色シルト、炭化物を多く含む、第3、4層よりも若干黒味かかっている。ピット1埋土は10YR4/1褐色シルト、炭化物は少ない、ピット2埋土は7.5YR6/1褐色シルト、炭化物を若干含む、住居埋土よりも灰色味が強い。

基本層位は次のとおり。第1層、表土、盛土で疊、石炭津を多く含む、38cm、第2層、5PB5/1青灰色粘土質シルト、酸化鉄分を多く含む、12cm、第3層、10YR6/4にぶい黄橙色シルト、土師器を含む、下の4層よりも若干灰色ががっている、15cm、遺構検出面。第4層、10YR5/4にぶい黄褐色シルト、5cm以上である。

地 点 ③

所 在 地 白石市字東大畑96-1、97の一部、98の一部、99の一部、115-4、115-1、116-1、116-2

調査要因 店舗建設

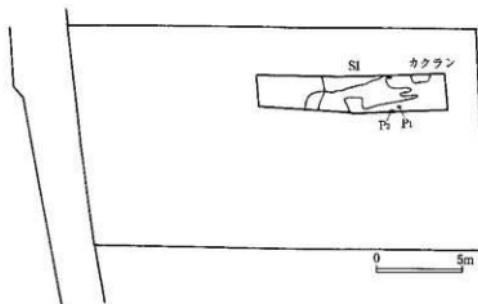


第11図 大畑遺跡地点③平面図 (S=1/1,000)

N 調査期日 平成20年11
月4日～6日

調査面積 4.49663 m²
(掘削面積118m²)

今回の調査箇所はJR東北本線白石駅から北東へ約0.63kmの位置にある。周囲は住宅地、農地となっていて、店舗建設に伴い、確認調査を実施した。トレンチはコンクリートブロック等を避け、計10箇所設定した。



第12図 大畠遺跡地点②平面図 (S=1/300)

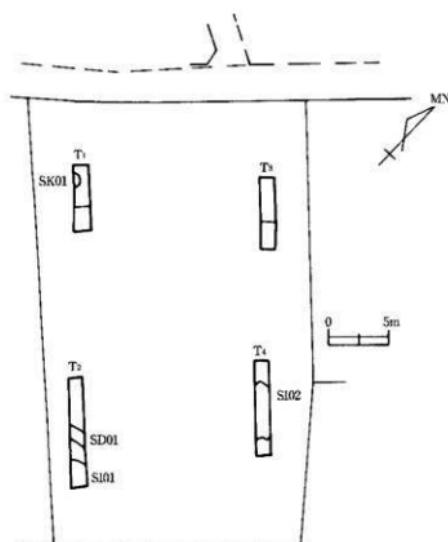
た。なお、今回の事業区の一部は平成9年に確認調査が実施されている。この時はトレンチが3本設定され（図ではSトレンチと呼称）、計226m²が掘削面積となっている。

調査の結果、土器等が発見された。T1では第2層から土師器、須恵器（強風で飛ばされ、粉失）、T3では第3層から近世陶器、旧水路跡埋土から須恵器壺破片、T6の第3層からは縄文時代後期初頭の同一個体の土器が散らばって発見された。T7からは土師器、須恵器が発見された。

T4では方形基調の擾乱、圃場整備以前の水路跡が確認されたが、表土直下から掘り込まれていた。

T5西壁際では、幅50cm、深さ35cm溝状落ち込みが確認されたが、3層が堆積土になっており、近世以降のものと推定された。T6では北へ向かって第3層の黒褐色土が傾斜し、縄文土器が含まれ、沢跡か河道跡と考えられた。

基本層位は何れも類似しているが層厚はそれぞれ異なっている。T1の第1層、水田耕作土、10YR5/1褐灰色シルト、23cm、第2層、10YR5/2灰黄褐色シルト、22cm、第3層、10YR4/1褐灰色シルト、18cm、第4層、10YR5/4にぶい黄褐色シルト、45cm、第5層、10YR5/4にぶい黄褐色砂礫層、玉砂利、層厚不明であった。



第13図 大畠遺跡地点④平面図

地 点 ④

所 在 地 白石市字大畑一番146

調査要因 駐車場建設

調査期日 平成21年3月16日

調査面積 555m² (掘削面積32.51m²)

今回の箇所はJR東日本東北本線白石駅から北東へ約0.62kmの畠地である。周囲は南隣を除き、宅地となっている。

確認調査トレンチは計4本設定した。その結果、堅穴住居跡2棟、溝跡1条、土坑1基、土師器、須恵器、近世磁器などが発見された。T1では長軸1m、短軸0.5m以上の土坑1基、T2では北東から南西へ延びる幅1mの溝跡、一辺が1.3m以上の堅穴住居跡1棟、T4では一辺が4m程と推定される堅穴住居跡1棟が発見された。この住居跡には東側に焼土を作り、東側に竈があったと推定される。

遺構確認面は、いずれも第3層上面となっている。SI01の埋土は10YR4/1褐色シルト、SD01は10YR3/1黒褐色シルト、SI02は10YR3/1黒褐色シルト、焼土は10YR4/8赤色シルト、SK01は第2層と第3層の混土である。T4における基本層位は第1層、表土、10YR5/2灰黄褐色シルト、30cm、第2層10YR4/1褐色シルト、20cm、第3層、10YR6/4にぶい黄褐色シルト、層厚不明となっている。T1だけが層相が異なり、他のトレンチの第2と第3層に対応する層の間に別な層（第2層と第3層の混土）が存在する。

3 田中遺跡、田中環濠遺跡

県遺跡番号 02135、02285

遺跡略号 TN

所 在 地 白石市大鷹沢三沢字田中、東町六

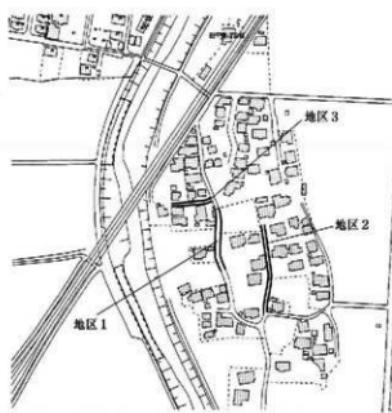
丁目ほか

調査要因 下水道埋設

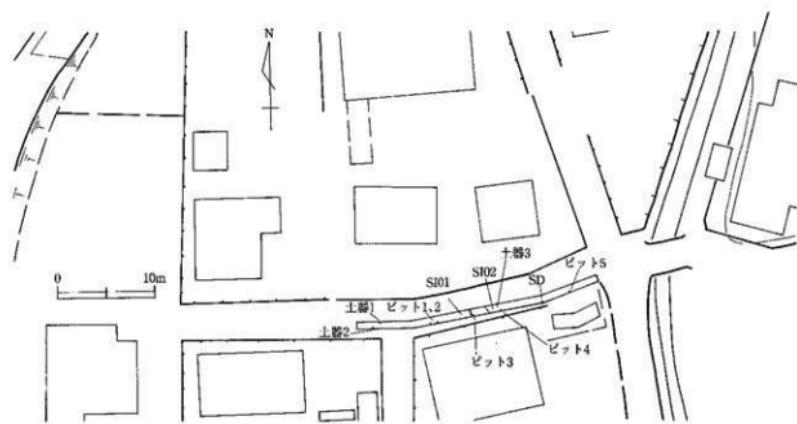
調査期日 平成20年8月20日～12月3日

調査対象面積 898m²

田中遺跡、田中環濠遺跡跡は東北新幹線白石藏王駅から南西へ約0.9kmの沖積平野にある。現状は主として宅地、畠地となっている。田中遺跡は東北新幹線建設時に発掘調査が実施された遺跡である。田中環濠遺跡は昭和49年には市史編纂に伴い、測量調査が実施されていた遺跡である。周囲に水濠が巡る遺跡で、鎌倉時代～室町時代の居館跡と推定されていた。



第14図 田中遺跡、田中環濠遺跡全体図 (S=1/5,000)



第15図 田中遺跡地区3詳細図 (S=1/500)

今回、公共下水道工事に伴い工事立会を実施した。工事の一部は、シールド工法が採用されたため、地面の掘削が行われなかった箇所がある。立会の結果、3箇所で埋蔵文化財が発見された。

1の箇所では9世紀頃の甌の取手が発見された。出土した層位は旧表土と推定された。様々な土が混じっていたことから、沢か堀状の地形であったことが推定された。

2の箇所は田中環濠遺跡の中央であることから、細心の注意を払いながら立会を行った箇所である。土師器の出土があったものの、新しいガラス片、陶磁器片、木片を含む層が堆積していた。付近の畠地からは近世陶磁器に混じって、1点ではあるが中国産青磁碗蓮弁文片（13世紀～14世紀）が出土した。基本層位は第1層、道路敷盛土、30cm、第2層、暗褐色シルト、旧表土、17cm、第3層、茶褐色シルト、70cm以上である。

3の箇所は遺構、遺物の密度が高かった箇所である。竪穴住居跡2棟、ピット5基、幅1.5mの溝跡1条が発見された。住居跡1は長さ6m以上、ピット3基、住居跡2はピット1基を伴うものであった。ピット5は単独で発見された。遺構の時期は南小泉式期と考えられる。8世紀末から9世紀初めの坏も出土している。図示しなかったが、ハケメが施された甌の底部片（7世紀代）がある。

4 白石城跡

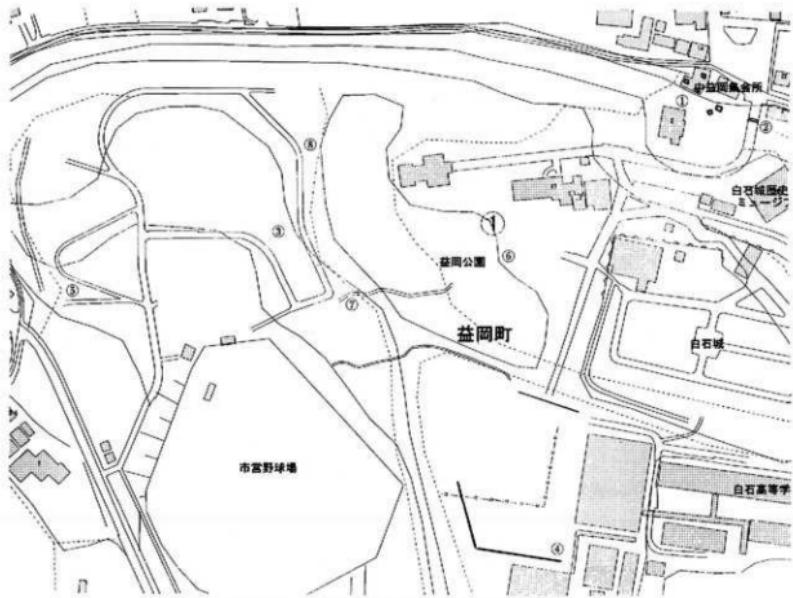
県遺跡番号 02197

遺跡略号 SJ

所在地 白石市益岡町

遺跡はJR東日本東北本線白石駅から0.8kmの丘陵上に位置している。当該地の現況は公園、社地、学校用地等である。

地点①は益岡町125番地2における個人住宅建設に伴う確認調査である。対象面積は297.16m²で、



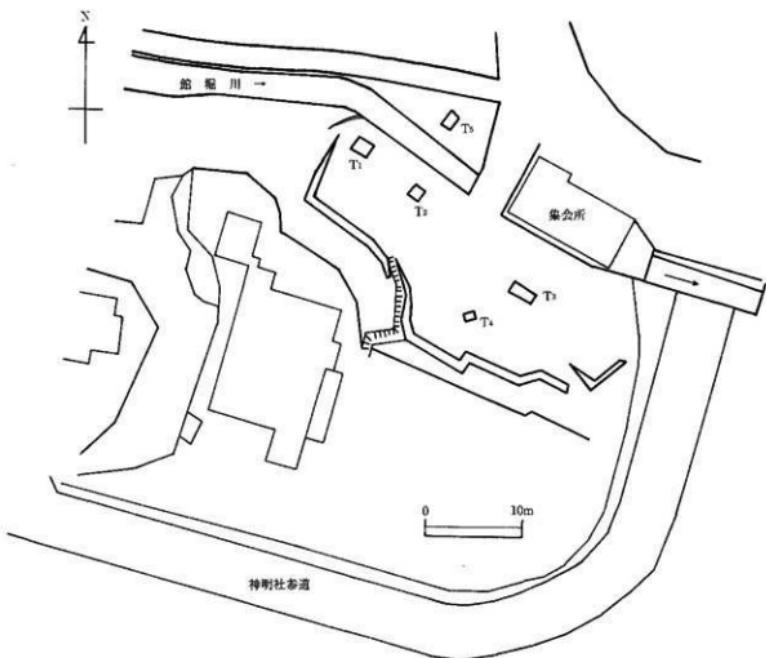
第16図 白石城跡調査位置図 (S=1/2,500)

掘削面積は10.95m²である。調査の結果、遺構は確認されず、T 1のみで多様な遺物が出土した。縄文時代早期、後期、晩期、弥生時代中期の円田式の土器、スクレーパー、近世以降の陶磁器、土人形があり、時代的なまとめを欠いている。以前、建物があった箇所で、表土からの出土であることを考慮すると、過去の収集品が紛れ込んだ可能性がある。他のトレンチでは、表土下は10YR5/4に近い黄褐色シルトの盛土などで、ビニール片を含むことから新しい時代のものと考えられた。

地点②は益岡町125番地2における個人住宅の水道管理設に伴う工事立会である。対象面積は9.8m²である。掘削土から陶磁器1点が出土した。

地点③は益岡町81-1における県営ロッククライミングボード撤去に伴う工事立会である。対象面積は357m²である。掘削範囲の東壁北端付近で、暗灰褐色土の落ち込みが確認されたが、詳細は不明であった。

地点④は益岡町2-7における白石高校グランド整地及び防球ネット設置に伴う工事立会である。対象面積3,440m²である。現状のグランドに盛土を行うものであるが、ネット柱設置のため、掘削される箇所があることから工事立会を実施した。その結果、既存テニスコート側から南へ2本目のコンクリート柱掘削土から近世陶磁器2点が出土した。なお、テニスコート西側の土壘上には「奉獻 昭和四年一月繪植付四百五拾本地毫反五畝拾步 明治二十一年同年会」の石碑があり、裏面に76名の名前が記されている。廃城後の土地利用を示すものである。



第17図 白石城跡地点①平面図 (S=1/500)

なお、益岡公園周辺では陶磁器が表採されるので、地区を明示して掲載した。京信楽系陶器などは注目されるものである。また、地点⑧では陶磁器と共に水晶片を表採したが、帰り道に野球場東側斜面から二の丸公園周辺で紛失した。

5 白石会所跡

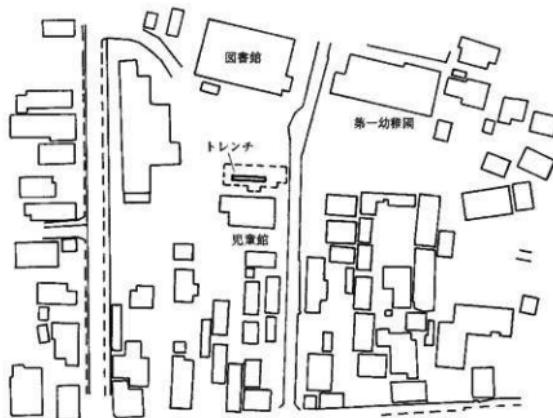
県遺跡番号 02445

遺跡略号 SKA

所在地 白石市亘理町37-1

調査面積 228m² (掘削面積19.5m²)

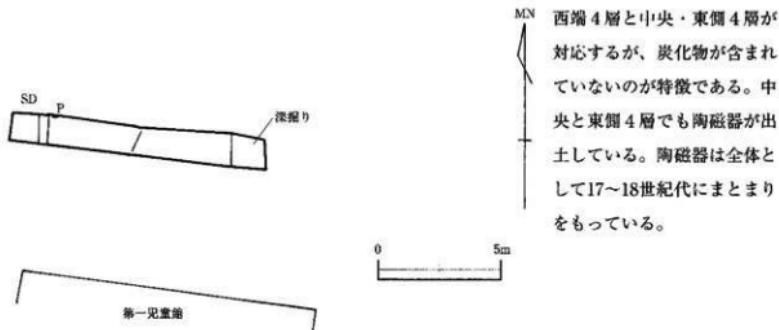
遺跡はJR東日本東北本線白石駅から北西へ約0.75kmの文教地区に位置している。周囲には白石市立第一小学校、第一幼稚園、第一児童館、情報センター、図書館が当該調査地を取り囲むように立地している。この箇所はこれまで、白石市図書館・公民館（旧刈田病院本館、明治15年建築）、として利用されていた建物があった場所で、歴史史料から近世においては白石会所跡が存在した箇所ではないかと推定されていた。



第18図 白石会所跡平面図 (S=1/2,000)

調査ではトレンチ1箇所を設定した。その結果、溝跡1条、ピット1基、近世陶磁器類が多数出土した。トレンチ西端における基本層序は次のとおりである。第1層、表土、盛土、10YR4/1褐色灰色土、10cm、第2層、盛土、25Y7/3 浅黄色砂、10cm、第3層、10YR3/1黒褐色土、焼土、炭化物を多く含む、9cm、第4層、10YR5/1褐色灰色シルト質砂、炭化物を多く含む、25cm、第5層、10YR6/3にぶい黄橙色土、酸化鉄を多く含む、層厚不明。遺物取り上げ等はトレンチ西側を①、中央は②、東側は③とした。

第3層の焼土、炭化物を含む層は、昭和28年の白石小学校表校舎火災に伴う地層と考えられる。焼土の上に盛り土を行い、旧刈田病院本館移転を行ったものと推定される。溝跡（幅25~35cm、長さ130cm以上）は第4層上面から掘り込まれていた。方形基調のピット（直径40cm）は第5層上面で発見した。第1層~第3層から陶磁器が出土した。トレンチ中央、東側でも上記と同様の層序である。



第19図 白石会所跡トレンチ図 (S=1/200)

白石会所跡の歴史的背景について

ここでは、本遺跡の調査結果を踏まえ、この場所の歴史的背景について述べたい。

既述のように、現在教育施設が建ち並ぶ本遺跡周辺は、明治の頃から白石小学校（現白石第一小学校）の敷地となっている。大正4年に制定された同校の校歌に、

明治のみかど（天皇）畏くも かりのみやみ（宮居）にあてたまふ

栄（はえ）あるには（学校）は その昔 藩主の君の かりやかた

という歌詞があった。この部分は今では歌われなくなっているが、この場所がかつてどういう場所であったかをよく伝えるものとして大変興味深い。

まず最後の一節、「藩主の君の かりやかた」とは、この地に仙台藩主やその世子等が利用したといわれる御仮屋（本陣）が置かれていたことを指している。

そしてその周辺には、刈田郡の代官や大肝入の会所、それに付属の蔵など藩関連の施設が数多く建てられていた。貞享4年（1687）、大肝入山崎七郎兵衛は、それまで別の場所にあったこれらの施設を自己の土地であるこの地に移転している。今回の調査で出土した17~18世紀の陶磁器類は、これら会所や本陣にて使用されていたものと考えられよう。（ちなみに、古写真や図面等から察するに、今回調査したのはおそらく本陣の建物にかかる場所と思われる。）

近世の白石は、仙台藩重臣片倉家1万8千石の城下町であったが、藩はこうした大身の給人達が持つ強固な支配権の乱用防止と縮小を図り郡奉行を設置し、その代官を在地に派遣していた。そして、代官とその命を受けた大肝入ほかの村役人達が民政を司った。彼らの会所は、白石ほか大河原、亘理など藩内各地に設置されていた。

さて、白石会所は貞享4年の移転以後は変わることなく明治を迎えるが、その後この場所はどうなったか。

まず、明治5年4月には役場が、同9年4月には小学校が設置された。同年6月と14年8月には、明治天皇が巡幸の際の行在所として旧本陣を利用している。先の校歌にある「明治のみかど」云々のくだりは、この時のことを指す。その後、役場が別の場所に移転し、児童数の増加による校舎はか付属施設の新築及び増改築が度々行われており、結果として旧藩時代の建物は順次取り壊されていった。旧本陣の解体後、玉座の間跡地に奉安殿（明治41年）が、その北に明治記念文庫（大正3年）が、南には武徳殿（大正10年）が建設されているが、奉安殿と武徳殿（一時公民館として利用された）が戦後程なく、図書館として利用されていた明治記念文庫が昭和58年に解体されている。

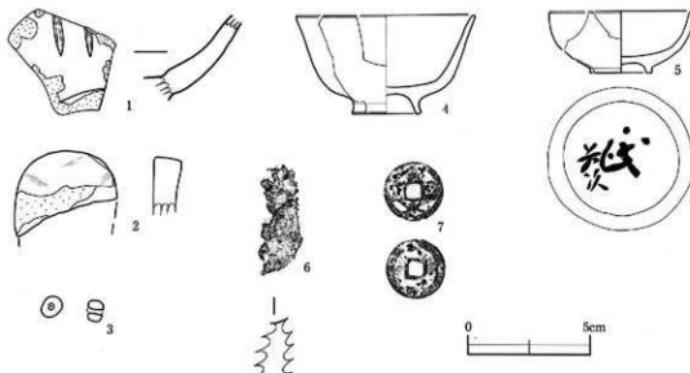
旧刈田病院本館（既述）が移築されたのは昭和31年で、後に警察署及び消防署の設置に伴い明治記念文庫と共に少々東に移転している。これは、平成20年に市指定文化財となり、解体保存された。今回の調査は、この旧刈田病院本館解体に伴い行われたものである。

以上のように、本遺跡周辺は、近世には会所や本陣といった藩の施設が建ち並び、明治以後は幾多の建物の解体、建設が繰り返し行われ今の文教地区が形成されてきた。（櫻井和人）

【主要参考文献】『白石市史 1・4』『白石小物語』『白石市文化財愛護友の会 会報第31号』『仙台市史 近世1』『明治天皇聖蹟志』『明治100年白石風物誌』



第20図 発見された遺物 (1)



第21図 発見された遺物 (2)

井戸内跡 出土遺物観察表 (1)

井戸番号	出土遺跡、位置	種別	外面の特徴		備考
			外表面の特徴	内面の特徴	
第6図1、 写真図版4-6	SI02南西ピット	土師器坏	クロナデ、ケズリ、回転糸切	ヘラミガキ、黒色處理	推定口径13.3cm、推定底径6cm、 高さ4.4cm
第6図2、 写真図版4-1、 4-2	SI02カマド焼1、 カマド埋土4	土師器坏	クロナデ、回転糸切	ヘラミガキ、黒色處理、灯明 墨・軽用か	推定口径13.2cm、推定底径6.4cm、 器高4.1cm
第6図3、 写真図版4-5	SI02南東SK埋土上	土師器坏	クロナデ、ヨコナデ、回転 糸切	ヘラミガキ、黒色處理	推定口径13.3cm、底径6cm、器高 5.2cm
第6図4	SI03カマド焼、 SI04東区埋土2	土師器坏	クロナデ、ケズリ、回転糸 切	マツフ、黒色處理	推定口径11.8cm、推定底径4.6cm、 器高4.6cm
第6図5	SI03カマド焼	土師器壺	クロナデ、回転糸切	クロナデ、黒色物質付着	底径7.6cm、残存高7.5cm
第6図6	SI03埋土1、2	土師器壺	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、マツフ	推定口径18cm、残存高16cm
第6図7	SI03埋土北半	須恵器壺	クロナデ	クロナデ	
第6図8	SI03カマド焼土、 埋土2	土師器壺	ヨコナデ、ケズリ、茶褐色物 質付着	ヨコナデ	推定底径7.5cm、残存高20.6cm
第6図9	SI03埋土1	土師器球腹 壺	ヨコナデ、ヘラナデ	ヨコナデ、ヘラナデ	推定口径17cm、残存高6.5cm
第6図10、 写真図版4-4	SI01埋土9	須恵器長頸 瓶	クロナデ、自然釉、リング 状突起	クロナデ、ケズリ	頸部径7cm、残存高6.6cm、9世紀 代、会津大口產
第6図11	SI04東区埋土2	土師器壺	クロナデ、回転糸切	クロナデ	推定口径14.2cm、底径7.2cm、器高 10.5cm
第6図12	SI04カマド焼口	土師器坏	クロナデ、ケズリ	ヘラミガキ、黒色處理	推定口径12.6cm、推定底径5.2cm、 器高5.1cm
第6図13	北西区5層	土師器壺	クロナデ	クロナデ	推定口径13cm、残存高7.8cm
第6図14	東区5層	須恵器坏	クロナデ、回転糸切	クロナデ	推定底径6.8cm、残存高2.3cm
第6図15	地点①T 1、 3~5層	高台付坏	クロナデ	クロナデ	推定底径6.6cm、残存高2.1cm

林室内遺跡 出土遺物観察表(2)

調査番号	出土位置	種類	外観の特徴	内面の特徴	備考
第7回1、 可真田版4-7	地蔵①T3、 4周	須恵器底部 板	ロクロナデ	ロクロナデ	推定底径9cm、残存高9cm、9世紀、 会津人式
第7回2	地蔵①T2、 3周	土師器高环	ナデ	ミガキ、黒色処理、荒いナデ	推定直径5cm、残存高7.2cm、7世 紀後半～8世紀初め
第7回3	地蔵①T4、 2～3周	土師器环	ロクロナデ、圓軸系切、コテ あて調整	ロクロナデ	底径3.3cm、残存高9.9cm、10世紀 代

林室内遺跡 出土遺物観察表(3)

調査番号	出土位置	種別	外観	法	集
第8回1 可真田版4-8	SI01環土1	土師器坏	墨青、外面はロクロナデ、内面は回転系切、 内面はヘラミガキ、黒色処理		
第8回2、 可真田版4-8	SI02北環土2	土師器坏	墨青、外面は回転系切、内面はヘラミガキ、 黒色処理		
第8回3、 可真田版4-8	SI04埋土6～8 層	土師器變？の 局部部分	細かい目底あり、ナデ、剥離面あり	長さ6cm以上、厚さ2.2cm	
第8回4	SI03北埋土1	石芯	両面に剥離あり、黒色質岩	長さ5.9cm、幅2.6cm、厚さ0.9cm、重量13g	
第8回5、 可真田版4-8	SI01埋土2	椎石器	断面が並な六角形を呈し、曲取りしている。 半滑になっている。	残存長6.4cm、幅6cm、厚さ5.3cm、重量302g	

出土遺物観察表(1)

調査番号	出土位置、層位	種類	外観の特徴	内面の特徴	備考
第20回1 a ～e	大塚跡地點⑤、 T.6、3層	繩文土器、 浅鉢	無節→懸垂文	ミガキ	
第20回2	大塚跡地點⑤、 T.4、旧水路跡	須恵器器	平行タキ	青海波文	
第20回3	大塚跡地點⑤、 T.7、3層	須恵器變？	ケズリ、ロクロナデ	ロクロナデ	8世紀前半以前
第20回4、 可真田版5-2	田中遺跡、土器 地點	土師器壳	ハケメ→ミガキ、煤付着	ナデ	底径32cm、残存高13cm
第20回5、 可真田版5-3	田中遺跡、土器 地點	土師器坏	ヨコナデ、ケズリ→ミガキ	ヨコナデ、ナデかミガキ	推定口径16.8cm、5世紀後半～末、 須恵器破壊
第20回6、 可真田版5-4	田中遺跡、土器 地點	土師器坏	ロクロナデ、手持ちヘラケツ リ、底面はマメツ	マメツ	推定口径16cm、底径9cm、器高 3.7cm、8世紀末～9世紀初め
第20回7	白石城跡地點①、 T.1、1層	繩文土器、 浅鉢	繩文LR、繩文土器	条虫文	早期
第20回8	白石城跡地點①、 T.1、1層	繩文土器、 深鉢	繩文系Lの押圧	ナデ、ミガキ	後期
第20回9	白石城跡地點①、 T.1、1層	繩文土器、 深鉢	斜目、繩文LR→平行沈波文	ミガキ	後期
第20回10	白石城跡地點①、 T.1、1層	繩文土器、 深鉢	繩文LR、綫縞文	荒いミガキ	晚期
第20回11	白石城跡地點①、 T.1、1層	繩文土器、 深鉢	ミガキ	ミガキ	後期か晚期
第20回12	白石城跡地點①、 T.1、1層	繩文土器、 鉢	繩文LR→沈波文	ミガキ	晚期
第20回13	白石城跡地點①、 T.1、1層	口唇部に列点文、繩文LR→ 茎形文	口唇部に列点文、繩文LR→	ミガキ	晚期大割C2式
第20回14	白石城跡地點①、 T.1、1層	中世陶器、 鉢	平行沈波文、煤付着	ナデ、煤付着	円田式
第20回15	白石城跡地點①、 T.1、1層	中世陶器、 鉢	ナデ	ナデ	
第20回16、 可真田版6-4	桂賀原敷遺跡	円筒埴輪	観のハケメ、突帯が剥落	荒いナデ	
第20回17、 可真田版4-3	大塚跡地點②、 SI01東環土	土師器高环	ケズリ	ヘラミガキ、黒色処理	底径8.4cm、残存高4.4cm

出土遺物観察表(2)

地名番号	出土位置	種別	外観の特徴等	内面の特徴等	備考
厚真園版5-6 白石城跡地点①	T1、1層	塊状石器	縁辺全体が削離されている。	長さ5.6cm、幅3.8cm、厚さ1.45cm、重量36.5g	
厚真園版5-6 白石城跡地点②	T1、1層	塊状石器	縁辺全体が削離されている。	長さ4.7cm、幅3.6cm、厚さ1.53cm、重量30.6g	
厚真園版5-7 白石城跡地点①	T1、1層	上人形	焼焼と考えられるが、焼局不明、天狗の柄杓か?	折れあり、残存長4.7cm	
厚真園版5-7 白石城跡地点②	T1、1層	土人形	焼焼と考えられるが、時期不明	残存長3cm	
厚真園版5-7 白石城跡地点③	T1、1層	土人形	焼焼と考えられる。唐子ふうの袖、袖はほつてある。	残存長6.4cm	
人道遺跡地点①	樹根のある石製品	樹円形を呈している。側面、裏面に擦痕あり、軽い。	幅4.1cm、残存長3.7cm、厚さ1.2cm、重量11.7cm		
第21回2	2007年2月28日、SD03南側壁土				
人道遺跡地点①	2007年3月9日、北西カクラン	縁切片	厚さ2.2cm		
大畠遺跡地点①	2007年3月2日、SD01堆上	電水透過程鉄	直徑2.5cm、孔径0.6cm、重量3.5g		
第21回3	大畠遺跡地点①、 2007年3月7日、SH01堆土北西	土瓦	長軸0.83cm、短軸0.77cm、孔径0.25cm、重量0.4g		
大畠遺跡地点①、 2007年3月1日、SD03堆上	鐵鋤	10g			
大畠遺跡地点①、 2007年3月7日、SH01堆土北西	棒状鉄器	3.7cm	3.1g		

第2表 市内遺跡出土陶磁器一覧

地名	出土遺跡	出土位置・層位	種別	特徴	備考
1	新宮内遺跡	T3、2層	陶器	大崩相馬、灰釉陶、18世紀	2008年5月12日地点①
2	新宮内遺跡	表土	陶器	砂質時刻不明、灰粒	2008年5月12日地点①
3	鮮魚販賣敷跡	表土	表焼き	複合面がある。	2008年7月9日、分布調査
4	白石城跡①	T1、1層	陶器	中世陶器、鉢	2008年10月1日確認調査
5	白石城跡①	T1、1層	陶器	壺形、燒造、19世紀前半	2008年10月1日確認調査
6	白石城跡①	T1、1層	陶器	壺形時刻不明、灰粒	2008年10月1日確認調査
7	白石城跡①	T1、1層	陶器	壺形時刻不明、土粒、裏面に炭化物付着	2008年10月1日確認調査
8	白石城跡①	T1、1層	陶器	壺形時刻不明、内側鋸歯、鉢底と口周囲	2008年10月1日確認調査
9	田中環濠遺跡	表採	陶器	中國陶器、灑井窯、青色黒い、13~14世紀	2008年10月21日工事立会、第21回1、写真回版5-1
10	田中環濠遺跡	表採	陶器	人面相馬、折線輪花皿、印文花、18世紀後半	2008年10月20日工事立会、写真回版5-3
11	田中環濠遺跡	表採	磁器	肥前窯、青磁柴付碗、18世紀後半	2008年10月20日工事立会、写真回版5-2
12	田中環濠遺跡	表採	陶器	大崩相馬、灰釉陶、18世紀代	2008年10月20日工事立会
13	田中環濠遺跡	表採	陶器	小野相馬、外周に淡緑色、内面は白陶釉、鉢	2008年10月20日工事立会
14	田中環濠遺跡	表採	磁器	白磁、角型小皿、梨形、19世紀前半、產地不明	2008年10月20日工事立会
15	田中環濠遺跡	表採	陶器	奈良時刻不明、白陶釉	2008年10月20日工事立会
16	田中環濠遺跡	表採	陶器	大崩相馬、灰釉陶、18世紀代	2008年10月20日工事立会
17	田中環濠遺跡	埋瓦瓦	陶器	小野相馬、灰釉陶、18世紀代?	2008年10月20日工事立会
18	田中環濠遺跡	埋瓦瓦	磁器	肥前窯付、簡素窯、18世紀後半?	2008年10月20日工事立会
19	田中環濠遺跡	埋瓦瓦	陶器	近世~近代	2008年10月21日工事立会
20	田中環濠遺跡	埋瓦瓦	陶器	小野相馬、淡青色釉陶	2008年10月21日工事立会
21	大畠遺跡	T3、3層	陶器	大崩相馬、灰釉陶、17~18世紀	2008年11月4日確認調査
22	白石会所跡	1~3層	陶器	大崩相馬灰釉陶、18世紀代	2009年1月16日試掘調査
23	白石会所跡	1~3層	陶器	人面相馬灰釉陶、鉢底、18世紀	2009年1月16日試掘調査、写真回版6-2
24	白石会所跡	1~3層	陶器	大崩相馬灰釉陶否?、18世紀代	2009年1月16日試掘調査
25	白石会所跡	西側4層	陶器	大崩相馬灰釉陶、18世紀代	2009年1月16日試掘調査
26	白石会所跡	西側4層	陶器	人面相馬灰釉陶、18世紀代	2009年1月16日試掘調査
27	白石会所跡	西側4層	陶器	大崩相馬新分け灰釉、灰釉と鐵釉、18世紀代	2009年1月16日試掘調査
28	白石会所跡	西側4層	陶器	人面相馬新分け、19世紀前半	2009年1月16日試掘調査、写真回版6-2
29	白石会所跡	1~3層	陶器	小野相馬淡青色釉あめの波流し、灰焼、18世紀代	2009年1月16日試掘調査
30	白石会所跡	中央4層	陶器	小野相馬灰釉陶、18世紀代	2009年1月16日試掘調査、写真回版6-2
31	白石会所跡	西側4層	陶器	大崩相馬灰釉陶、江戸時代	2009年1月16日試掘調査
32	白石会所跡	中央4層	陶器	肥前窯灰釉陶、貝岩手?、18世紀後半以降	2009年1月16日試掘調査、写真回版6-2
33	白石会所跡	西側4層	磁器	肥前窯付小皿、型紙底、17世紀末~18世紀中	2009年1月16日試掘調査、写真回版6-2
34	白石会所跡	西側4層	磁器	肥前窯付灰釉陶、17世紀~18世紀代	2009年1月16日試掘調査
35	白石会所跡	1~3層	磁器	波紋付?厚手の瓶、青付?18世紀以降	2009年1月16日試掘調査

番号	出土遺物	出土位置・層位	種別	特徴	備考
36	白石会所跡	西側4層	磁器	肥前束口鉢、江戸時代	2009年1月16日試掘調査全
37	白石会所跡	1~3層	磁器	肥前束口鉢、具眞、江戸時代	2009年1月16日試掘調査全
38	白石会所跡	西側4層	陶器	唐津象嵌大鉢、17世紀後半代	2009年1月16日試掘調査、写真図版6-32
39	白石会所跡	西側4層	陶器	透明白釉、17世紀代	2009年1月16日試掘調査全、写真図版6-31
40	白石会所跡	中央4層	陶器	未発見。既知切立型、19世紀代、削制?	2009年1月16日試掘調査全、写真図版6-33
41	白石会所跡	西側4層	磁器	地方窯、染付、江戸時代~明治時代	2009年1月16日試掘調査全、写真図版6-33
42	白石会所跡	1~3層	磁器	施釉不明、染付皿、江戸時代	2009年1月16日試掘調査全、写真図版6-33
43	白石会所跡	西側4層	陶器	施釉時期不明	2009年1月16日試掘調査全
44	白石会所跡	西側4層	未焼き	素焼き、時期不明	2009年1月16日試掘調査全
45	白石会所跡	中央4層	未焼き	素焼き、火鉢、江戸時代	2009年1月16日試掘調査全、写真図版6-31
46	白石会所跡	1~3層	磁器	20世紀	2009年1月16日試掘調査全
47	白石会所跡	東側4層	磁器	現代	2009年1月16日試掘調査全
48	白石城跡50. 内曲輪八幡社南斜面	表塗	陶器	大輪郭馬蓋、黒釉地に、白毫輪、19世紀中頃	2009年1月21日
49	白石城跡50. 内曲輪八幡社南斜面	表塗	陶器	里? 近代	2009年1月21日
50	白石城跡50. 内曲輪八幡社南斜面	表塗	磁器	染付小杯、時期不明	2009年1月21日
51	白石城跡50. 内曲輪八幡社南斜面	表塗	陶器	あめ輪鉢、時期不明	2009年1月21日
52	白石城跡50. 西曲輪八幡社南斜面	表塗	陶器	铁輪底鉢、時期不明	2009年1月21日
53	白石城跡6. 二の丸跡	表塗	陶器	伝肥前、白毫輪、江戸時代	2009年1月30日、写真図版6-14
54	白石城跡6. 二の丸跡	表塗	陶器	京焼系、色絵碗、18世紀	2009年1月30日、写真図版6-13
55	白石城跡6. 二の丸跡	表塗	陶器	大輪郭黒毫輪飾輪小鉢、18世紀後半以降	2009年1月30日
56	白石城跡6. 二の丸跡	表塗	陶器	小野田黒毫輪青色施彩圓盤鉢、18世紀代	2009年1月30日
57	白石城跡6. 二の丸跡	表塗	磁器	肥前、染付、江戸時代	2009年1月30日
58	白石城跡6. 2	帽形土	陶器	源氏貴賤白磁面反皿、青文字墨押し、幕末	2009年1月30日工事立会
59	白石城跡6. 二の丸と足生広場の間の階段沿い	表塗	磁器	銀版輪写、明治大正時代	2009年1月30日
60	白石城跡6. 二の丸と足生広場の間の階段沿い	表塗	磁器	染付、近代	2009年1月30日
61	白石城跡6. 芝生広場と神明社森の境界	表塗	瓦	丸瓦の先端破片	2009年2月10日
62	白石城跡6. 芝生広場と神明社森の境界	表塗	陶器	大輪郭白毫輪鉢、18世紀後半~19世紀前半	2009年2月10日
63	白石城跡6. 芝生広場と神明社森の境界	表塗	陶器	長林、且?、時期不明	2009年2月10日
64	田上遺跡	表塗	磁器	肥前束口鉢、近代	2009年2月13日確認調査
65	白石城跡6. 白石高校内	1~2層	陶器	岸田鐵耕撰、17世紀中頃	2009年2月28日工事立会、写真図版6-1-1
66	白石城跡6. 白石高校内	3層	磁器	波佐見、染付碗、くわらんかわん、18世紀後半	2009年2月28日工事立会、写真図版6-1-2
67	大堀遺跡	表塗	陶器	肥前、灰釉、17世紀代	2009年3月13日確認調査全
68	大堀遺跡	表塗	陶器	波佐見の波、18世紀代、くわらんかわん	2009年3月13日確認調査全
69	大堀遺跡	表塗	陶器	大輪郭馬、灰釉碗、18世紀	2009年3月13日確認調査全
70	大堀遺跡	表塗	陶器	大輪郭馬、白毫輪土瓶、19世紀前半	2009年3月13日確認調査全
71	大堀遺跡	表塗	陶器	地方窯、染付、明治時代、19世紀後半	2009年3月13日確認調査全
72	大堀遺跡	表塗	陶器	波佐見、灰、江戸~明治	2009年3月13日確認調査全
73	大堀遺跡地点④	T 1. 1~2層	磁器	波佐見、蛇目細割皿、高台縁に砂付着、17世紀前半	2009年3月16日確認調査
74	豊牛田遺跡	表土	陶器	肥前、繪物が7. 17世紀後半?	2005年4月18日工事立会
75	小佐佐遺跡	表土	陶器	大輪郭馬、灰釉碗、18世紀	2005年11月15日発掘
76	大堀遺跡	T 1. 2~4層	磁器	波佐見、染付碗反皿、19世紀前半、准定口絶、10.8cm、底径4.5cm、高さ6.1cm	2005年9月20日、発掘調査、地点②、第21回、写真図版6-5
77	大堀遺跡	T 2. 2~3層	陶器	大輪郭馬、灰釉碗、18世紀、高台内に墨書き「前口」、准定口絶8.7cm、底径3.8cm、高さ3.8cm	2005年9月20日、発掘調査、地点②、第21回、写真図版6-6
78	大堀遺跡	T 1. 2~4層	陶器	大輪郭馬、鐵輪土瓶、19世紀前半?	2005年9月20日、発掘調査、地点②
79	大堀遺跡	T 1. 2~4層	陶器	肥前染付、唐草文、繁縝、18世紀代	2005年9月20日、発掘調査、地点②
80	大堀遺跡	T 1. 2~4層	陶器	模様、焰焼、鉢輪、19世紀	2005年9月20日、発掘調査、地点②
81	大堀遺跡	T 2. 2~3層	磁器	近代	2005年9月20日、発掘調査、地点②
82	人畠遺跡	T 2. 2~3層	磁器	瀬戸美濃、染付反皿、洋風模、押押し文	2005年9月20日、発掘調査、地点②
83	大堀遺跡	遺構確認面	陶器	表面不明、鋸、外縁は鉄輪、内面は白釉、近世~近代	2007年2月5日、発掘調査、地点①



1. 補室内遺跡地点③発掘風景（南西から）



2. SI01豊穴住居跡完掘状況（西から）



3. SI02完掘状況（北から）



4. SI02南西ピット土器出土状況（東から）



5. SI02南西ピット土器出土状況（北から）



6. SI03完掘状況（西から）



7. SI04完掘状況（西から）



8. SI04大戸産長頸瓶出土状況（北から）

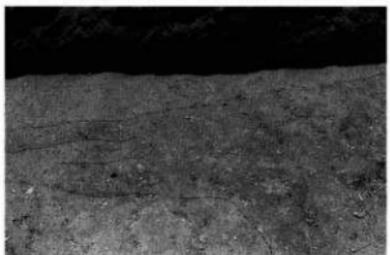
写真図版 1 補室内遺跡



1. 茅室内遺跡地点① T3、4層、大戸産須恵器出土状況



2. 大烟遺跡地点②調査風景（東から）



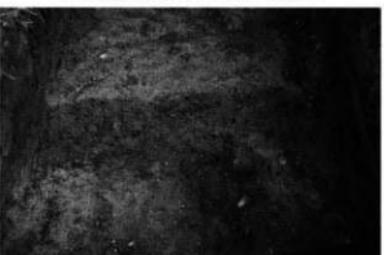
3. 大烟遺跡地点②SI検出状況（北から）



4. 白石城跡地点①調査風景（南から）



5. 白石会所跡調査風景（西から）



6. 同左SD検出状況（西から）



7. 同上SK検出状況（南から）



8. 田上遺跡T3全景（西から）

写真図版2 茅室内遺跡、大烟遺跡、白石会所跡、田上遺跡



1. 大烟遺跡地点③調査風景（西から）



2. 同左T6全景（南から）



3. 同上平成9年S1トレンチ(北から)



4. 同左S2トレンチ（南から）



5. 大烟遺跡地点④調査風景（南東から）



6. 同左T1、SK01検出状況（北から）



7. 同上T4におけるSiO2検出状況（東から）

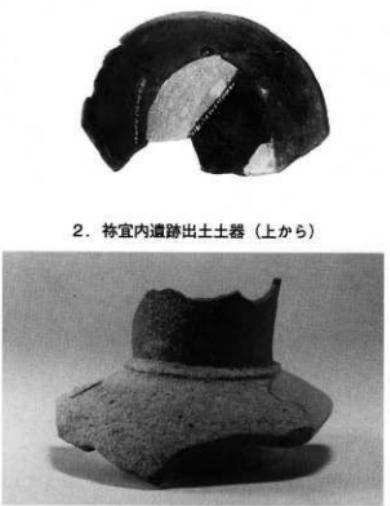


8. 大網遺跡T1全景（西から）

写真図版3 大烟遺跡、大網遺跡



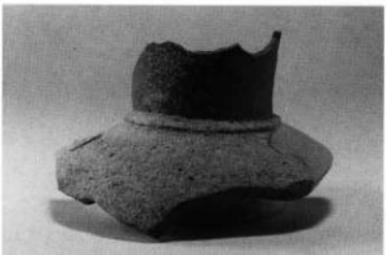
1. 萩室内遺跡出土土器（第6図2）



2. 萩室内遺跡出土土器（上から）



3. 大畠遺跡出土土器（第20図17）



4. 萩室内遺跡出土土器（第6図10）



5. 萩室内遺跡出土土器（第6図4）



6. 萩室内遺跡出土土器（第6図2）



7. 萩室内遺跡出土土器（第7図1）



8. 萩室内遺跡出土土器（第8図1、2、3）

写真図版4 出土遺物（1）



1. 袖室内遺跡出土石器（第8図5）



2. 田中遺跡出土土器（第20図4）



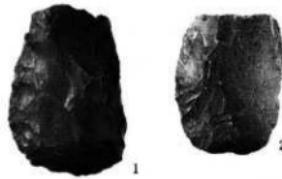
3. 田中遺跡出土土器（第20図5）



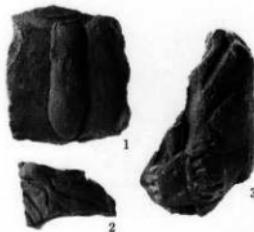
4. 田中遺跡出土土器（第20図6）



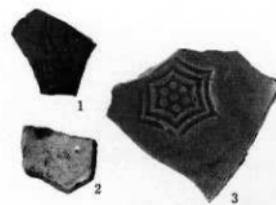
5. 大烟遺跡地点③出土土器（第20図1a～e）



6. 白石城跡地点①出土石器

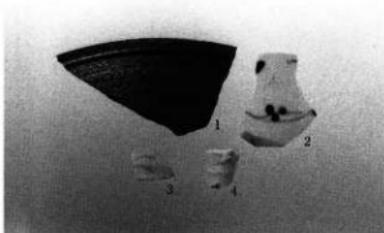


7. 白石城跡地点①出土土人形

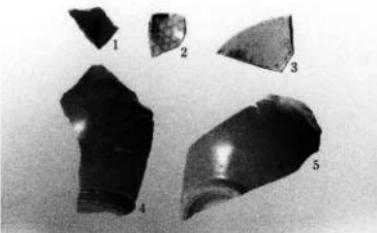


8. 田中環濠遺跡出土陶磁器（1は第21図1）

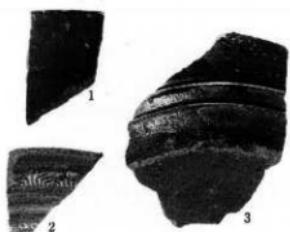
写真図版5 出土遺物（2）



1. 白石城跡地点④ほか出土陶磁器



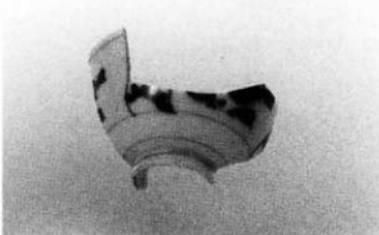
2. 白石会所跡出土陶磁器



3. 白石会所跡出土陶器類



4. 精質屋敷遺跡出土埴輪（第20図16）



5. 大烟遺跡出土磁器（第21図4）



6. 大細遺跡出土陶器（第21図5）

写真図版6 出土遺物（3）

報 告 書 抄 錄

白石市文化財調査報告書 第33集

市内遺跡発掘調査報告書 4

平成21年 7月27日印刷

平成21年 7月31日発行

編集・発行 白石市教育委員会

〒989-0206 宮城県白石市字寺屋敷前25番6

電話：0224（22）1343、0224（26）2453

印 刷 株式会社東北プリント

〒980-0822 仙台市青葉区立町24-24

電話：022（263）1166

